

みなみたかばし  
南高橋 (中央区民文化財)

● 湊1～新川2



● 亀島川に架かる鋼鉄トラス橋・南高橋は、昭和7年(1932)に架橋された震災復興橋梁の一つです。明治37年(1904)竣工の三連トラス橋・両国橋を改架する際、この橋の中央径間部分を移設・補強して南高橋が完成しました。明治期の旧両国橋を転用した現役の道路橋として貴重です。

永代橋 (国指定重要文化財)

● 新川1～江東区佐賀・永代1



● 関東大震災後の帝都復興事業で改架された永代橋は、大正15年(1926)に竣工しました。建設当時は、日本における最大支間を実現させた技術的完成度の高い鋼アーチ橋でした。ソリッドリブアーチの重厚な造形を特徴とする永代橋は、清洲橋と対照的な外観デザインの隅田川橋梁です。

文化財 記念碑

とよみばし  
豊海橋 (中央区民文化財)

● 新川1～日本橋箱崎町



● 日本橋川河口部に架かる復興橋梁・豊海橋は、昭和2年(1927)に架橋された下路式の鋼鉄フィーレンデル橋です。骨太な部材が格子状に組み合わされたような外観は、隣接する重厚なアーチ橋・永代橋とのバランスを考慮して設計されました。国内でも数少ない珍しい形式の橋です。

霊岸島検潮所・量水標跡 (中央区民文化財)

● 新川2-32-1先



● 明治6年(1873)に開設した隅田川河口の霊岸島検潮所は、標高基準を定めるための水位観測所でした。この検潮所の量水標で測った平均水面を基準(標高0m)として、日本水準原点(千代田区永田町)の標高が決定されました。旧検潮所跡にはシンボリックな観測柱が設置されています。

おいお  
於岩稲荷田宮神社の鳥居・百度石 (中央区民文化財)

● 新川2-25-11



● 4代鶴屋南北の作品「東海道四谷怪談」で有名な主人公・お右の伝承をもつ神社です。本殿の横に立つ小規模な石造鳥居は、明治30年(1897)に建立された直線的なデザインの神明鳥居で、柱下部には根元を囲む石造の根巻と方形の台石で構成されています。また、この鳥居の奥にある百度石(お百度参りのための石柱)は、大正3年(1914)に市川右団次が大阪・浪花座で興行した「四谷怪談」を記念して寄進したもので、区内で最も古い百度石です。

歴史モノがたり

江戸橋ヨリ錨橋遠景 明治21年(1888) 井上探景/画



明治中期ごろの日本橋川の舟運と兜町付近の様子を描いた錦絵です。画面左には、江戸時代以来の土蔵が立ち並ぶ小網町の河岸地と集積する荷舟の様子が見て取れます。一方で、中央には日本橋川沿岸に華麗なベネチア・ゴシック様式の浪沢栄一の邸宅、右奥には擬洋風建築の第一国立銀行が立ち並ぶ光景も目に入ってきます。江戸時代以来の風情と明治東京の新名所が並存していた時代の特徴を捉えています。

収藏品アーカイブズ

http://www.chuo-museum.jp